

## クリティバ（ブラジル）

### 都市（地域）概要

- ・クリティバ市は、人口約 160 万人、ブラジル、サンパウロ州に隣接するパラナ州の州都。ヨーロッパ系移民が多いことでも知られるブラジル南部の都市。

### 経緯

- ・1960 年代に始まった新都市計画では、人間優先、環境共生、地方自治、市民参加、都市行政改革といった、先進国において今日「まちづくり」の基本理念とも言える考え方が示され、かつそれらを実現したことにより、世界から注目を集めている。
- ・これらの取組みの実績は、歴代の市長のリーダーシップによるところが大きいといわれており、都市整備を行政の財力に見合った最小限の投資で行う様々な工夫と同時に、市民の公共意識を高めることこそがまちづくりを推進するという考え方が浸透。

### 内容

- ・公共バスシステムと連携した土地利用の誘導

都市への急激な人口集中に対し、低コストの独特のバス・インテグレーション（統合）・システムが機能している。

5本の放射状の交通軸に幹線となる高速バス専用レーンを設け、バスの輸送力とそのスピードを確保している。その他、支線や環状線など役割別に5段階に整理された各種バスが、分かりやすく色分けされ市内を走行している。

高速の幹線バスが走るこの5本の交通軸沿いは、商業系を中心とした高密度な土地利用が誘導され、軸線から離れるにつれて密度が低下していくような用途地域の指定が行われている。このような土地利用計画と公共交通整備が一体となることで、公共交通需要の創出を図り環境負荷の小さい都市づくりに寄与している。

プラットフォームを持つバス停（テューボ）は、鉄道駅のように乗降時間を短縮している。

- ・行政機関 IPPUC

都市計画の先進性を支える行政機関。都市計画課を核に土木、下水、公園、交通、各種営繕等の部局を一体化した機構であり、総合的に環境に配慮したまちづくり行政に成果をだしている。

- ・ごみと物品の交換制度

低所得層の地区ではごみと物品（食料、学用品等）との交換制度がある。過大な設備投資に依らないごみ収集システムであると同時に、再資源利用や環境保全への認識を改めるための青少年への啓蒙教育ともなっている。

- ・環境に配慮した公園づくり

土木的な道路や公園の整備を改め、自然地形を残しながらできる限り人工的な要素を入れないピオトープの考え方を取り入れ、市民教育こそがまちづくりの原点であるとの考えの下、地区毎の公園整備に地元の学校や住民組織が参画している。

#### 効果等

- ・バス交通システムによりバスの利便性・快適性が高まった結果、マイカー利用が削減。
- ・環境行政コスト削減と環境教育が両立した取組みが推進。
- ・世界各地のモデル都市となっている。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成